

# アムスルだより

No.45 2000年 9月11日

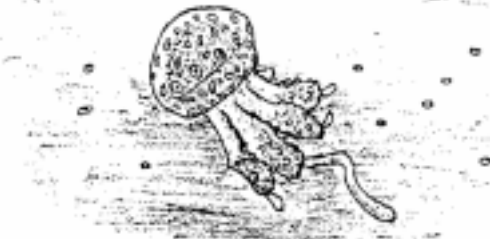
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



## 波間をただよ掃除屋さん

### -タコクラゲ-

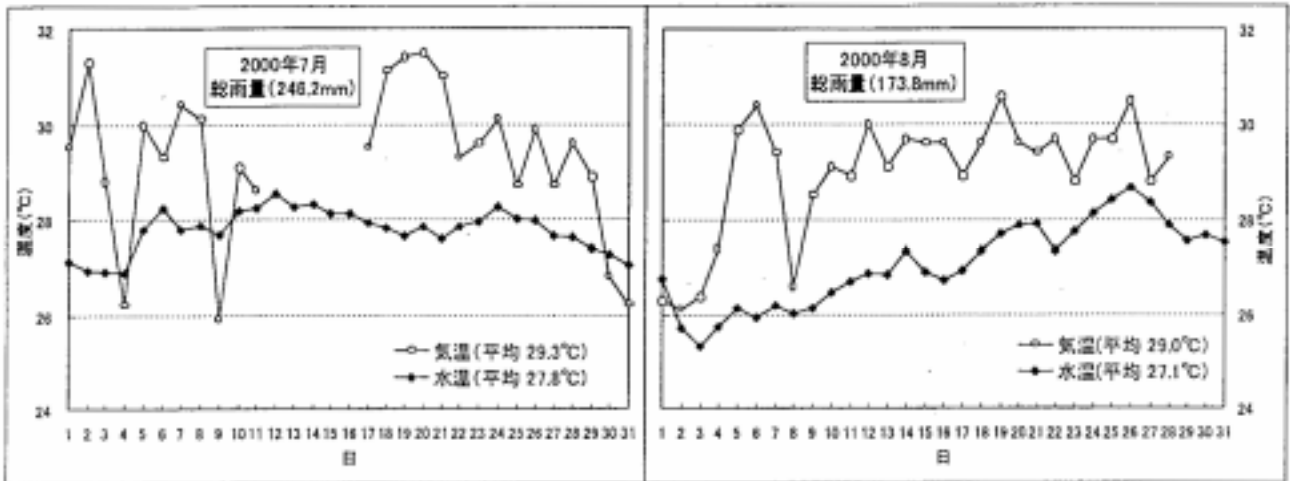
内地では「お盆を過ぎるとクラゲが出る」と言われますが、そのクラゲとは、アンドンクラゲという毒の強い直径 3 cm程のクラゲのことで、たしかにお盆の頃から内地の海で増えてきます。けれども、このクラゲは沖縄の海ではほとんど見かけることはありません。沖縄の海にいる毒の強いクラゲといえば、ハブクラゲが有名ですが、このクラゲも研究所ができてからこれまでの 12 年間、阿嘉島のまわりでは一度も見つかったことはありません。以前、アムスルだよりの 18 号で紹介したクシクラゲは、阿嘉島でもたくさん見かけます。けれども、クシクラゲは毒をもっておらず、みなさんのイメージするような毒をもった「刺胞動物しほうどうぶつ」のクラゲではありません。どうやら、阿嘉島のまわりには、こうした大型の刺胞動物のクラゲはとても少ないようです。今回は、その数少ないクラゲの中から、先日見つけた貴重なクラゲの話をしてしましょう。

そのクラゲの名前は、タコクラゲといます。全体的に茶色い色をしていて、丸くてしっかりとした傘かさをもつ、直径 10~20 cmのクラゲです。傘の下には、シャンデリアのように飾りのついた足(本当は“腕”といます)が 8 本のびていて、この腕の数と全体の色や形から“タコ”という名前がついたようです。

このタコクラゲの茶色い色は、実はクラゲの本当の色ではなく、褐虫藻かつちゅうそうという植物の色です。100 分の 1 ミリという、とても小さくて茶色い褐虫藻が、体の中に数えきれないほどたくさんすんでいるので、タコクラゲは茶色く見えるのです。これを読んで、「あれっ、サンゴと同じだ」と思った人もいるでしょう。そのとおり。タコクラゲも、サンゴといっしょで、褐虫藻と共生する動物で、褐虫藻が光合成をして作り出した栄養と海中のプランクトンを食べて得る栄養の両方で生きているのです。

このタコクラゲが、傘をパクパク動かしながら泳いでいるのをじっと見ていると、そのゆかいな動き方に心がなごむ反面、気楽に生きてる役に立たない生き物だな、と思うかもしれません。けれども、それは大きな間違いです。タコクラゲにかぎらず、クラゲたちは海の中を泳ぎながらとても大

## 阿嘉新港での定点観測



切な仕事をしています。それは、水をきれいにする働きです。ために、タコクラゲを入れた水槽と入れない水槽を用意してみましょう。そして、それぞれの水槽に習字に使う**ぼくじゅう**墨汁を入れて、水をにごらせてみましょう。にごった水の中で、タコクラゲは、一生けんめい傘を動かします。すると、クラゲのいない水槽の水はにごったままなのに、クラゲのいる水槽の水はだんだんきれいになっていき、1日たつとすっかり透明になってしまいます。では、汚れはどこにいったのかというと、水槽の底に沈んでしまっています。クラゲが泳ぎながら、にごりの元となる粒(この場合には墨汁の目に見えないくらいに小さな粒)を集めて、体から出すねばり気のある液でからめて、かたまりにしてしまったのです。同じことが、自然の海の中でもおきています。クラゲたちは波間をただよいながら、自分のまわりの汚れた水のごりの元を集めて、海をきれいにするという大切な働きをしているのです。

今、研究所では、このタコクラゲを飼育して、その生態を観察しています。このクラゲの泳いでいるところをご覧になりたい方は、ぜひ研究所に見学にきてください。

## 阿嘉島の海より

### -9月の台風に要注意!-

今年の夏も台風に悩まされますね。7月から8月までに合計5個の台風が阿嘉島に接近し、定期船が欠航になりました。今のところ大きな被害はなく一安心ですが、油断してはいけません。これまでの台風に関する統計をみると、沖縄県に接近する台風の数は8月が一番多いのですが、台風の最高気圧や最大風速のベスト10は、ほとんどが9月に発生した台風で占められています。つまり、これから発生する台風は大きくて風が強い傾向がありますので、台風情報にますます注意するようにしましょう。

## アムスルからのお知らせ

### -リーフチェック 2000 座間味村-

今年もリーフチェックが9月18、19日に座間味島の新田浜と阿嘉島のニシハマで行われます。海水浴客でにぎわうニシハマのサンゴの状態や魚の数は、去年とくらべてどうなっているのでしょうか？今、このリーフチェックに参加してくださるボランティアダイバーを募集しています。興味のある方は谷口研究員までお問い合わせ下さい。